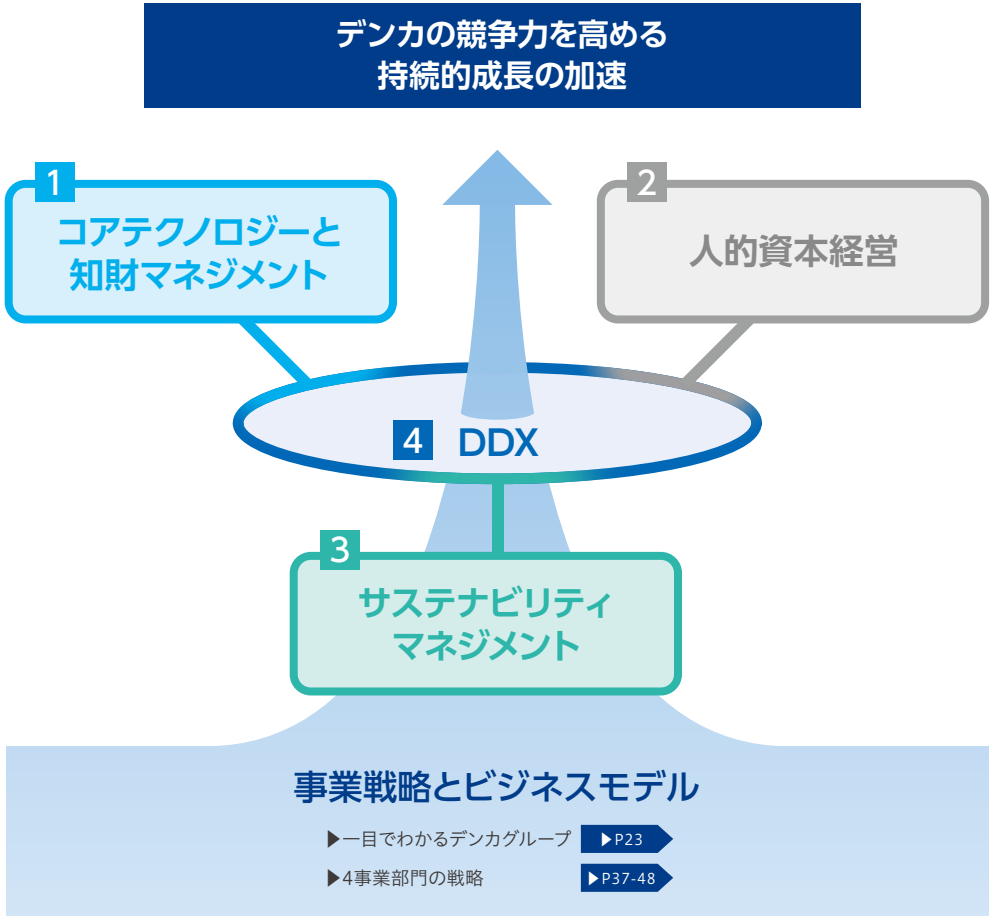
成長の原動力である無形資産の強化

デンカは、多岐にわたる事業を展開し、企業価値の源泉である無形資産を豊富に保有しています。
これらの無形資産は、先人たちが長年にわたり社会課題解決に取り組んできた歴史のなかで築き上げてきたものであり、事業成長やポートフォリオ変革の原動力となってきました。
今後は、無形資産そのものの価値を再認識し、ビジネスモデルの中心に据えることで、事業の持続的な成長を実現していきます。



1 研究開発と知財マネジメントによって、コアテクノロジーの発展を促進する ▶P50-55

デンカが有するコアテクノロジーは、半導体部品、医薬品、インフラ、樹脂と多岐にわたります。これらは、これからの時代に必要とされる、再生可能エネルギー、高速通信技術、カーボンニュートラル、人々のQOL向上の基礎ともなり、サステナビリティ社会の構築に貢献します。
これを具体化するため、当社では新事業ロードマップを作成し、研究開発体制を強化することによってキーテクノロジーの獲得を計画的に進め、既存事業の“染み出し領域”での新事業創出を進めるのはもちろん、アイディアピッチなどの手法を活用し、既存事業にとらわれない新事業創出を進めています。
また、この新事業創出の取り組みを進めるうえで、保有する特許など知的財産の管理・活用は極めて重要です。取締役会による審議を受ける知財戦略審議会などのマネジメント体制を整備し、事業部や研究部に知財担当者を置くことで、より事業化を意識した知財活用を促進しています。

2 人的資本経営により社員の能力を高め最大限に発揮させる ▶P61-64

一人ひとりが自己成長を実感できる会社を目指し、制度改革にも積極的に取り組んでいるほか、社員意識調査を定期的に実施し、課題抽出および改善施策を策定、実施しています。

3 サステナビリティマネジメントを通じて事業競争力を強化する ▶P65-70

当社の取引先においても、カーボンニュートラルを目指す動きが加速する中で、製造工程における環境負荷の低減や人権推進の取り組みは、当社製品の競争力を維持・向上させるためにも重要な要素です。当社は、110年にわたって自社の水力発電設備で発電した電力を使用するなど環境負荷の低い手段での生産を進めてきました。
今後はこれに加えて、サステナビリティに関する各側面のマネジメントを強化し、対外的な情報発信も強化することにより、サステナビリティ面の強みを当社の競争力向上・価値向上に確実につなげていきます。

4 DDXによるビジネスモデル変化の加速 ▶P56-59

DXを経営計画「Mission2030」実現のための有効な手段と位置づけ、Denka Digital Transfomation（DDX）をすすめるための盤石のIT構築と運営、デジタル人財（Digital Pilot）の育成と活用を進めています。